自　己　評　価　表（ 平成30年度 ）

愛媛県立小田高等学校

29

教育方針	地域社会と一体となって、校訓「友愛・誠実・努力」を基に、社会の形成者としての自覚を持たせ、生徒一人一人の能力・適性・進路に応じた指導とその実現に努め、心身ともに健全でたくましく生きる人間の育成を期す。	重点目標	1　元気に学校生活に取り組み、生き生きと輝く生徒を育てる。 2　より高い確かな学力を身に付けさせ、自己教育力を育てる。 3　規範意識・自己統制力・共生の心・対人関係能力を育てる。 4　希望進路を実現させるとともに、勤労観・職業観を育てる。 5　たくましい体力を身に付け、心身ともに健康な生徒を育てる。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況　※( )内は昨年度の値	次年度の改善方策
学校経営	魅力と活力ある教育活動の推進	生徒が学校生活に充実感を持ち、生き生きと活動する学校づくりを目指す。 積極的に外部人材を活用し、人材育成を目指した魅力ある教育活動を推進する。	B	学校生活に充実感を抱いている生徒の割合は、約76%（約83%）であった。多くの生徒が充実感を抱きながら学校生活を送れているものの、昨年度より割合は減少した。魅力化推進室を中心とした「小田高版・起業家教育プログラム」は、地元地域の外部講師を始め、県内外・国外の外部講師の協力を得て活動する等、魅力ある教育活動を行う	より一層、生徒一人一人に目を配り、生徒たちが目的を持って学校生活を送ることができるよう、教員間で情報を共有し、学年団を中心に適切な支援を行う。また、「小田高版・起業家教育プログラム」を始めとする魅力的な教育活動の更なる精選・充実を図り、生徒の主体的な活動となるよう支援する。
	人間としての在り方生き方を考える教育の充実	ホームルーム活動の時間に、少なくとも学期に１回は人間としての在り方生き方を考える時間（道徳教育）を設け、指導の充実に取り組む。	A	ホームルーム活動の年間指導計画の中に道徳教育を位置付け、各学期に１回実施した。また、全校集会や学校行事等を通して、豊かな心を育てるとともに規範意識の高揚を図った。	道徳教育の全体計画を基に、各教科や特別活動等において自尊感情を育み、自己有用感を受容できるような体験的な学習の充実を図る。
	開かれた学校づくり	年間10日程度の教育活動公開日を設定するとともに、参加者数の増加を図る。	A	保護者の約88%（約86%）の方が学校の様子が積極的に発信されていると評価した。また、今年度より半日開催から終日開催に変更した公開授業や運動会・文化祭といった教育活動を年間10日以上公開し、多くの保護者や地域の方々に直接本校の教育活動を見ていただいたり、学校ホームページを毎日更新することを目標にする等、積極的な情	本校の教育活動を直接見ていただける機会を増やしたり、生徒とともに活動したりする教育活動を行うなど今後とも検討が必要であると考えている。また、小田高日記を常に更新したり、他のページの充実を図るなどタイムリーな情報発信に努めたり、ＰＴＡだよりや学校新聞などに保護者等の寄稿を多くしたりするなどして連携を
	地域との結び付きを大切にした魅力ある教育の推進	地域住民との交流や小中学校等との交流学習を通して、豊かな人間性を育む。	A	生徒・保護者ともに約88%（約90%）の方が「地域や保護者との連携・協力ができている」と評価した。地元の伝統行事に参加することで地域理解を深め、幼・小・中学校との合同行事を行うことで好ましい人間関係作りをするなど、人間としての在り方や生き方を考えさせ、豊かな人間	地域や幼・小・中学校との連携を深めるとともに、豊かな自然環境の中で自然に親しみ、人との触れ合いを通して、普段の授業では学ぶことができない体験活動を更に充実させていく。
学習指導	家庭学習の充実	生徒が主体的に家庭学習に取り組み、毎日平均して３時間以上の学習時間を確保するよう、指導法の工夫・改善に取り組む。	C	１学期平常日が146分（133分）、２学期平常日が142分（145分）と、昨年度より若干増加したが、目標の３時間には届かなかった。また、約28%（約32%）の生徒が家庭での学習習慣が身に付いていないと自己分析するなど課題	引き続き、各教科担任が計画的に課題を出し、その評価・点検を徹底する。また、家庭での学習につながる授業展開及び自主的な予習・復習が習慣化するよう継続的に指導していく。
	教科指導の充実	85%以上の生徒が「分かる授業」であると実感できるよう、工夫・改善に取り組む。	B	生徒は約86%の者が、保護者は約91%の方が「分かる授業となるよう先生が工夫・改善をしている」と評価した。また、実際に授業を参観していただいた保護者の約98%（約93%）の方は「授業の工夫や改善に取り組んでいる」	授業アンケートの「やる気を引き出す授業でしたか」という集計結果と合わせてを分析すると、まだまだ課題は多いようである。各教科においてそれぞれの課題をしっかりと確認・分析し、指導方法や使用教材の研究に
		個別指導を徹底するなど、一人一人を大切にしたきめ細かな教科指導の実践に取り組む。	B	生徒の約83%（約87%）が「一人一人を大切にした授業が実施されている」、また、生徒の約89%（約93%）が「先生は個別指導も熱心に取り組んでいる」と評価を得た。昨年度よりわずかながら減少している。	今後とも習熟度別講座編成による授業や多くの選択科目の開設など、少人数指導を充実させながら、生徒の能力や進路等に応じた個別指導の徹底を図る。
	言語活動の充実	教科指導や教科外指導を通じて、生徒が主体的・協働的に学び、思考力や判断力、表現力等を身に付けるよう取り組む。	A	授業へのまじめな取組約92%（約80%）、各種行事の活動の充実度約82%（約92%）、進路希望の実現度約95%（約94%）等のアンケート結果から、多くの生徒が主体性や積極性、思考力や表現力等を身に付けることができていると考えられる。また、「オダカン」等のアクティブラーニングの推進にも努めた。	今後とも、全ての課・科で連携を取り、様々な場面を活用しながら、個々の生徒の生きる力の育成を目指した指導を継続していく。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況　※( )内は昨年度の値	次年度の改善方策
生徒指導	基本的生活習慣の確立	家庭との連携を深め規則正しい生活習慣を確立し、安易な遅刻・欠席を減少させ、一年間の皆勤率60%以上を目指して指導に取り組む。	C	２学期末までの皆勤率は、１年生55%（56%）、２年生61%（68%）、３年生67%（59%）、合計62%（62%）と目標を達成している。安易な遅刻・欠席をする生徒は少ないが、５分前登校に遅れる生徒や休みがちな生徒が固定化しており、内面的な個別の指導が必要である。	保護者との信頼・協力関係を一層深め、基本的生活習慣の確立を図るとともに、いじめ・不登校・問題行動等の未然防止や早期発見に努める。スマートフォン等の利用の仕方や寮生の生活等について指導の徹底を図る。生徒の悩みや相談等に素早く丁寧にきめ細やかに対応できるよう教育相談体制の充実を図る。
		日頃から高校生らしい清潔で端正な身だしなみを心掛けさせるとともに、ルールを遵守する意識付けやマナーの向上に取り組む。	B	身だしなみや基本的生活習慣の指導がきちんと行われていると回答した生徒が96%おり、時間・場所・場合に応じた行動の在り方について十分考え、行動することができている。今年度も全体での身だしなみ指導は行っておらず、自ら小田高生らしい清潔で端正な身だしなみを心掛ける前向きな生徒が多い。	ルールやマナーを自らのものとして考えられるように、内面的な自覚を促す指導を継続する。また、規範意識の向上を図り、学校や社会のルールやマナー等を遵守し、自己管理ができ、小田高生としての誇りが持てるよう全教職員共通理解のもと、適切な指導を行う。
	特別活動の充実	生徒一人一人を部活動等に主体的に取り組ませ、充実感を味わわせるとともに、指導の充実に努め、県大会出場35%以上を目指す。	A	県総体40名、県高文祭128名、県新人4名、延べ172名の生徒が県大会に出場し、目標を達成することができた。部活動等に意欲的に取り組んでいると答えた生徒も86%おり、各部・各自それぞれの目標に向かって精一杯努力している。	生徒数の減少に伴い、部員の確保が難しく休部する部もあるが、今後も生徒が意欲的に取り組め活躍できる場を確保する。次年度から週２日程度の休養日を確保し無理のない範囲で部活動に取り組ませ、休養日も有効に活用できるように家庭との連携を図る。学校行事等に新たな視点を加えて取り組む。
	健康・安全指導の徹底	講話や指導、実習等を年間30回以上実施するとともに、内容の充実・改善に努める。	A	全校朝礼やその他の行事等を通して、健康・安全面に関する講話・研修・指導を年間30回以上実施した。内容についても教師の講話や生徒自らの発表等工夫し、指導の徹底を図ることができた。	生徒課と総務課が中心となり、今までの成果や課題を踏まえて、健康・安全・防災等の指導計画を次年度も立案する。また、実施においてはより工夫を加え、共通理解のもと全教職員で指導にあたる。
		交通事故０件を目標に安全指導の徹底を図り、命を大切にできる生徒の育成に努める。	C	昨年度まで３年連続交通事故０件だったが、今年度は原付バイク・自転車それぞれ１件ずつ計２件の事故が発生した。擦り傷程度の軽微なけがであったが、事故が起きて残念であった。ＴＳＡ委員や教員等から事故を起こさないよう注意喚起を行った。	警察等諸機関との連携を深め交通安全についての意識の高揚を図り、正しい交通ルールや知識を理解させ、安全に留意し原付バイクや自転車を利用させる。規範意識や交通マナーの向上に努め、自他の命を尊重し、自主的に安全に留意できる能力を養わせる。
進路指導	キャリア教育の充実	職場見学、インターンシップ、講演会、ガイダンス、学年指導等のキャリア教育を通じて、望ましい勤労観・職業観を育成する。また、それらの情報を、保護者にも発信する。	B	職場見学やインターンシップを通しての外部研修、外部講師を招いての講演会やガイダンス、学校内で実施する学年指導等、年間を通じ段階に応じたキャリア教育を充実することができた。適性検査の結果を元にした各学年の就職・進学指導を通して、職業観や進路に対する意識を高めることができた。 ホームページにより各行事の様子は配信できたが、進路課としては懇談会における保護者への資料の紹介しかできなかった。	就職・進学ともに、生徒の希望や適性に沿う指導が行えるよう各種ガイダンスや学年指導などのキャリア教育を充実させる。また、生徒や保護者が必要とする進路情報を提供できるよう努める。
	個に応じた指導の充実	模試や補習の実施により、進学・就職希望者の学力向上を目指す。また、ガイダンスを通じて、面接指導や応募書類の書き方指導などを行い、一人一人の希望や適性に応じた進路指導を行うとともに、合格率100%を目指す。	B	就職指導（校内就職模試の実施・適性検査の実施・応募書類の作成指導・面接指導等）、進学指導（進学模試の実施・適性検査の実施・小論文指導・志望理由書作成指導・面接指導や受験科目に対する指導等）において、個に応じた指導を行い希望企業や大学へ合格することができた。	就職指導において、昨年の問題点であった夏季休業中の指導時間の不足は解消できた。来年度も引き続き日程を調節し計画的に実施したい。進学指導は計画通り実施することができた。しかし、生徒の志望校や受験方法に合った学習指導・面接指導を行う上での時間が不足していたように思われる。そのため、各学年での意識付けを早く行い、試験に対する意識を高められるよう、さらに指導したい。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。